

外国語

外国語科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

学習指導要領では、「目的や場面、状況などに応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考、判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されています。

- 〈主体的な学び〉 単元の中で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、児童が興味関心を持つことのできる題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりして学習への動機付けを図ること。
- 〈対話的な学び〉 単元の中で、他者と情報や考えを伝え合う活動を設け、他者を尊重しながら対話を図る活動を設定したり、他者の考えに触れて自分の考えを振り返ったり深めたりするよう促すこと。
- 〈深い学び〉 具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

このため、授業では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、児童にとって必然性のある活動を効果的に設計することが大切です。また、① 自分自身のことを伝え合わせること、② 伝え合う目的があること、③ 伝え合う内容が互いにとって未知であること、④ ①～③の条件を具備した内容を伝え合う中で、言語材料の「意味」と「(当該言語材料が使われる)場面」と「(当該言語材料を使用する)目的」を結び付けることができるようにすることが大切です。

2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられています。

3 外国語科における「言語活動」について

外国語科における「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」などの活動を意味します。言語材料について理解したり練習したりする活動は「指導」とされ「言語活動」とは区別されています。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されます。練習は、言語活動を成立させるために重要ですが、練習で終わることのないように留意する必要があります。

外国語科における学習評価のポイント

1 「外国語科」の目標と「英語」の目標について

「外国語科」の目標 【教科目標】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
(1) 知識及び技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに・・・
(2) 思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、・・・
(3) 学びに向かう力、人間性	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いて・・・

「英語」の目標 【「英語」の目標＝領域別目標】 英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、(3)に示す資質・能力を育成する。				
聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
ア ゆっくりはっきりと話されれば、・・・	ア 活字体で書かれた文字を識別し、・・・	ア 基本的な表現を用いて指示、・・・	ア 日常生活に関する身近で簡単な・・・	ア 大文字、小文字を活字体で書くこと・・・

2 外国語科における観点別評価の考え方について

1に示すように、「教科目標」及び「英語」の目標＝領域別目標を踏まえ、「内容のまとめり（五つの領域）」ごとの評価規準を作成します。

	聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
知識・技能					
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度					

※ 学年末に評価を総括し、指導要録に記載する際に全ての評価情報が揃っていればよく、単元ごとに、全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はありません。ただし、各単元において、3観点をバランスよく見ることは重要です。

3 「知識・技能」の評価

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価する観点です。学習初期段階において、努力を要すると判断される状況になりそうな児童を見出し、おおむね満足できる状況となるよう適切な指導を行うことが大切です。

4 「思考・判断・表現」の評価

児童がコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、既習語句や表現を使って話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちなどを表現したりしているかどうかを評価する観点です。そのため、学習過程において、普段から指導者と児童、児童同士で既習語句や表現を使って常にやり取りをする場面を設定しておくことが大切です。

5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

児童が英語を使って自分の考えや気持ちなどを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組み、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けているかどうか、また、将来英語が必要な場面で自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価する観点です。本観点の評価場面は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点にかかわる評価の場面と同時とし、本観点のみ取り出している評価は行いません。